



號七十一立一第受

414
A 851

次官
和山

大臣



秘
密
無
異

米國調査委員ト交渉ノ件

折一紙

主管
通商局
重

阿部

大正十一年四月
限
侯爵
郵寄
贈

廿四日檀濱解纜後一路平安本月二日ホノル、
到着致候。米國調査委員等、去月十七日着
布以來尚川續々開議中、有之。本月二十日頃迄
議事ヲ終結シ、便船次芽歸来ス。トノ事相方リ
申候。抑、今般去官布陸出張之使命ナルヤ、特殊ニ性
質ヲ帶ヒ公然日本理事官ノ名稱ヲ以テ彼等ト交
渉スルハ如何ニモ不穩當ニシテ、彼等ノ感情ヲ害
スルノ恐有之。去リトテ一個人之資格ニテハ、何等
ノ効用ナカルヘク、米國ニ訪省スルハ、本官出張ニ
關シ未タ彼等ニ對シ何等ノ通知無之模様ニシテ、彼

主市主國

等リシテ本官使命之性質ヲ了解セシムルコトヲ
一ニ着手スルキ要務ト存候ニ付在之趣旨ヲ以テ
先ニ平井領事官補ヨリ調査委員ノ一人ナリ前大
統領ドリル氏ニ内託致候處同人ノ願ハ本官ノ布哇
出張ヲ歡迎シタル様子ニテ本月五日ヲ期シ會見
スヘシトノコトニ付同日午後同人ヲ訪ヒ先ツ本
官使命ノ性質ヨリ説キ起シ日本労働者ノ布哇渡
航ハ日布双方ニ便益ナル所以ヲ陳示シ可成ハ目
下ノ如ク契約労働ノ方法ニ依リ渡航者ノ數ヲ制
限スルコト昨年三四月頃ニ起リタル如キ好マシ
カラサル事件ヲ再演スルノ恐モ無之又比較的善
良ノ労働者ヲ得ルノ便益アリテ万華都令ヨカル
ベシト相述候處彼云フ本件ニ関シテハ委員會ニ

於テモ談合シタルコトアレドモ何等確定シタル
コトナクシテ止ミタリ然レモ自分ノ考ニテハ契約
労働者ノ移入ハ到底禁止セラルベケレドモ日本
労働者ハ一般普通ノ航客トシテ布哇ニ渡来シ入
國後契約ヲ結ビ是迄通リ労働ニ従事スルコトヲ
得ベケレハ現行契約労働者移入方法ノ廢止ハ深
ク憂フルニ足ラストラ暗ニ帝國政府ガ奴隸制ノ
臭味アル契約労働ノ維持ヲ希望スルコトヲ悟ム
ノ風有三候依テ話頭ヲ轉シ將來ニ於ケル日布間
ノ通商航海及在布日本臣民ニ對スル待遇等ニ関
スル意見相尋候處日米條約ハ取りテ直ニ日布
條約ナレハ近來米國ガ日本ニ對シ他國ニ比シ異
ナル取扱ヲナサル以上ハ亦布哇ニ関シテニ日

本。對シ他國ニ異ナル取扱ヲナスカハキコトハ
十カルベシトノ事ニ有之候丈ヨリ轉シテ調査委
員ノ一人ナル米國下院議員ヒト氏ヲ相尋候處来
布ノコトハ「ドール」氏ヨリ兼知シ居リタリトテ大ニ
歡迎シ其妻及委員會附書記官ハモ紹介シ相携ヘ
テ同宿ナル調査委員長カロム氏ヲ尋ネ三人鼎坐テ
官先ツ布哇出張之事由ヲ語り候處「カロム」氏云フ自
分等ハ單ニ調査ノ為メ當地ニ出張シタルモノニ
シテ迄テ米國議院ニ於テ當布哇島ニ関スル制度
ヲ議定スル迄ハ何人ニ對シテモ委員會ノ意見ヲ
發表スルコト能ハガレドモ又何人ヲリトモ公然
委員ニ對シ意見ヲ提供セシト欲スルモノアラバ
考慮込ニ之ヲ圖取ラシガ為メ毎水曜日ヲ公開日

ト定メタリ(在布支那人等ハ既ニ其委員ヲ撰ビ各
自ノ要求事項ヲ委員會ニ陳述セシメタル由概テ
貴君モ来ル七日(水曜日)委員會ニ出席セラレテハ
如何トノコトニ在否「之ニ對シ自分ハ何等公
然諸願書ヲ貴委員會ニ提出シ若シハ要求々同敷
事ヲ十サシガ為メ欲出セラレタルモノニアラズ
エテ布哇ニハ多數ノ日本人在任スルコト故布哇
諸制度変更ノ際主トシテ彼等ノ情況視察ノ為メ
来リ出来得ハリンバ日本及日本臣民ノ利害ニ関
スル諸問題ニ對シ貴君等御意見ノ内示ヲ蒙リ又
貴君等ノ希望トシテハ「御参考ノ為メ」日布間ノ
關係及在布日本臣民ノ利害ニ関シ出来得ハ之ケ
ノ報告ヲ提供セシガ為メ来リタルモノナリハ公

開委員會ニ出席ノ義ニ謝絶ニ及ビ度旨申述候處
委員等歸米ノ期日ニ切迫ニ度レハ兎モ角明後日
(即七日)政廳(即今委員會ニ場)ニ出頭セウシテハ如
何左スレハ一同出席ノ上ニテ所託ヲ圖取ルベシ
トノ事ニ付其議ニ同意致置候
當日カニ山氏ニモ契約労働ノ運命相尋候處布哇ハ
今保後米國ノ一部ヲ組織スルモノナシハ米國ノ
一部ニ於テハ或ル法律ヲ施行シ他ノ一部ニ於テ
ハ之トナテ反對ノ法律ヲ施行スルカ如キコトハ
法制上到底出来得ヘカラサルコト、候スル旨相
尋申候即ケド山氏ノ所説ト同シ、契約労働ヲ否
定スルモノニ有三候又布哇ニ同スル諸制度ヲ米
國議院ニ於テ討議スルキ時期相尋候處今保味議

ノ候ニテハ餘、漠然トシテ何事モ其緒ニ就キ兼
スルニ付可成ハ本年未開會ノ議院ニ於テ討議ス
ルコトニ致度旨相尋申候「モルガン」フリアリノ兩委員
殊ニ「モルガン」氏ハ七日ノ會見前是非共一度面會
致置度存候得共兩人共差支有之其儀ヲ得兼申候
却説日布間ノ重要問題ハ申ス迄モ無之労働問題
ニシテ今回布間ノ出張ハ主トシテ調査委員等が
此問題ニ對シ如何ナル意見ヲ抱懷スルカラ探知
モ臨機應變ノ善後策ヲ講ヤシメラル、ノ御趣旨
ト存候ニ付先ツ第一ニ前陳ノ通り契約労働ノ運
命ヲ推同シタハ次第ニ有三候蓋シ明治十九年官
制移民渡航以來今日ニ至ル迄布哇ニ於ケル我移
民事業ノ成功ハ全ク契約労働制ニ依ルモノニシ

テ即チ日本ニ於テハ官府若クハ會社ニ依ラサシ
移民ノ渡航ヲ禁シ以テ其數ヲ制限シ又布哇ニ於
テハ契約ヲ履行セシムルガ爲メ逃亡者ヲ待ツ
罪人ヲ以テスルカ如キ苛酷ナル制裁アリ二者相
待ツテ其効用ヲ尽シタルモノト被存候然ルニ今
係決議ハ此ノ酷法ヲ自然消滅ニ帰セシメ契約勞
働者移入ハ米國法律ニ背反スルモノトシテ前
委員等ノ所說ノ如ク遂ニ廢止セラル、モノト覺
悟セサルヲ得サルコト、相成候ニ付本件ニ直接
關係ヲ有スル當地在留右移民會社代理人ヲ召集
シ右ノ理由ヲ説明シ契約勞働ノ廢止ハ果シテ從
來ノ移民事業ヲ繼續スルコト能ハサルニ否ラ
ズムルモノナリヤ否尚耕主代理人等トモ談合セ

シメ各自ノ意見ヲ存官考査提出セシメ候處右
代理人共契約勞働ノ廢止ハ到底免カルハコト能
ハサルコトハ充分覺知スルハニ善後策ニ至ツテ
ハ何レモ定案無之去リトテ移民事業ヲ繼續スル
コト能ハサル程ノコトモナカルベシトノ事ニ付
存官ノ意見トシテ兎ニ角日本人ハ布哇繁榮事業
ニ有要ニシテ欲クベカラサル適當ノ勞働者タル
コトハ何人モ充分認ムルコトヒナシバ他日布哇
ニ對スル制度發表ノ上條々トシテ其制度ニ違反
セサル限リ各自便宜ノ方法ヲ設テ移民事業ニ從
事スルノ外致方ナカルハ今日調査委員ニ何等
ノ方案ヲ提出シ其採用ヲ迫リ得リトテ彼等ハ種
查報告ノ外何等ノ權能ナケシハ之ニ對シ可否ノ

判決ヲ下スコト能ハサルハ勿論万一再提案ニ及
對ノ解決ヲ下サルハニ於テハ我ノ不利ハ申ス迄
ニ無之該局彼等ニ於テ我勞働者移入ノ必要ハ
充分承認ス居ルコトナレハ之ニ對シ苛酷ナル法
律ノ制定ヲ米國議院ニ勸告スルノ恐モナカレハ
キニ付今日ハ寧ニ沈着自重ノ主義ヲ執リ他日制
度發表ノ上實地ノ必要ヲ基礎トシテ當局者ト徐
ロニ事ヲ妥辦スルコト最モ得策ト存候旨申述候
處何レモ同端ノ趣申出候ニ付本件ハ他日ノ實地
問題トシテ處分スルコトニ致置候
本月七日政廳ニ出頭致候處專負長ハ其會議ヲ中
止シ本官ノ申條ヲ取ル一ニトノ事ニ付本官ハ
先ニ使命ノ性質ヲ説明シ次ニ勞働問題ニ端及致

在米國開公使館

候ハ本問題ニ關シ前述べ通り既ニ我意見ヲ一
定シタル以上ハ最早本件ニ關シ專負等ニ交渉ス
ルノ必要ニ無之又彼等ニ對シ我勞働者移入ノ必
要ヲ説キ恠モ我政府ハ熱心之ヲ獎勵スルカ如ク
相見候テハ日本政府ハ尙布哇ニ對シ野心ヲ抱懷
スルモノト思ハシムルノ恐モシトモ申サレ難ク
左スレハ却テ我勞働者ニ對シ不利ナル法律ノ制
定ヲ見ルニ至ルハ一ノ依ニ所謂先ヲ吹テ疵ヲ亦
ルノ嫌モ有之候ニ付本官ハ日本政府ハ日本關係
上勞働問題ヲ重要視スルハ他ニ之ニ比スルキ重
要問題ナキカ故ニシテ我勞働者ノ布哇ニ來タル
ハ布哇ニ其需用アルカ爲メニシテ取リ充テサス
常用供給ノ問題ニ外ナラザル旨ヲ述べ次キニ契

在米國開公使館

約問題ニ関シ委員全体ノ意見ヲ確メ度存候ニ付
米國ニ於ケル契約労働者移入禁止法ハ布哇ニモ
之ヲ適用スルニ至ルキヤ現ニ布哇移住民局ノ
許諾ヲ經テ移入スル日本労働者ハ果シテ米國
法律ノ禁止スル契約移民ナレバ普通旅客トシテ
布哇ハ上陸後耕主ト契約ヲ結ビ労働ニ従事スル
ハ違法ニアラサルカ普通旅客トシテ布哇國ニ上
陸スル労働者ハ三十弗若リハ五十弗ノ携帶金ヲ
要スルヤ以上四個ノ問ヲ設ケ委員ノ意見相尋候
處委員ハ調査報告ノ外権能ナキニ付遺憾其意
見ヲ發表スルコト能ハサレドモ此等ノ問題ハ當
然自身ノ解決スルコトナリト相答申候次
ニ米國政府力業ニ布哇國ニ於ケル日本臣民ノ既

得權ヲ尊重スルキ旨証言セラレタルハ帝國政府
ノ満足スルコトナリカ近來米國政府ハ日本ニ
對シ常ニ好意ヲ表シ未タ曾テ他國ニ比シ不利ナ
ク待遇ヲ日本ニ與ヘタルコトナレハ布哇ニ於
ケル帝國ノ通商航海及臣民ニ對シテモ其ノ如
クナレバ性質タルヲ問ハズ他國ノ通商航海及
臣民若クハ人民ニ適用セサル事項ヲ設定セラル
ハ力如キ事ナキハ帝國政府ノ確信スルコトナリ
レトモ尚此ノ點ニ關シ委員等ノ意見モ同一ナ
コトヲ推知シ得ルコトハ本官ノ多トスルコト
ナリ旨相述候處斯ノ如キ重要問題ハ當該外交機
關ヲ經テ日本政府力發議スルキモノニテ此ノ
委員會議ニ於テ聴取シ得ル一ナ問題ニアラストノ議

論（モルガン氏之ヲ主張ス）委員間ニ起リ候ニ付本宿
ハ貴委員等ノ参考ニ我意見ヲ申述ハ又我参考
近ニ差支ナキ限リ貴委員等ノ意見ヲ亦モタル近
ニシテ敢テ之ニ對シ委員會ノ議決ヲ亦モタルモ
ノニアラサレハ今日ノ談話ハ從テ私談的ノモノ
ト見做サレシトシテ希望スル旨ヲ述ヘテ引取申
候越テ其翌八日在米中川臨時代理公使ノ来候ニ
依リ今般帝國政府カ理事官ヲ當地ニ派遣シ米國
調査委員ト協議セシメトスルカ如キハ餘リ米
國ノ施政ニ干涉シ過リシモノトシ米國政府ニ於
テ稍不快ノ色モ有之候事情相分リ現ニ去ル七日
會見ノ時モルガン氏ノ如キモ或ハ右同様ノ感ヲ抱
キ居ルニハアラサルカト思ハル様子モ相見、

且前述ノ通り契約労働問題ヲ初メ其他ノ事項ニ
シテ我ノ知ラント欲スルモノニ對スル彼等ノ意
向モ大略相分リ候ニ付今後ハ可成交渉ケ間敷事
ヲ避ケ社交的談話ニ相止メ候事得策ト存候
着布以来今日迄ノ成行右ノ次第ニ有之最早此上
強テ本宿當地滞在ノ必要モ無之ニ付本日ノ便航
ニテ歸朝致度存候得共今般帝國政府カ此ノ布味
多事ノ際態々理事官ヲ當地ニ派出セシメラレタ
ルコトハ在布帝國臣民ノ大ニ満足スルトコロニ
有之候得者唯今突然トシテ去ルハ其満足ヲ無ニ
スルノ嫌モ有之候ニ付本月二十日頃米國調査委
員等ノ歸米ヲ待テ去ル二十四日當港出帆ノコトナ
ツク號ニテ歸朝ノコトニ取極メ申候

右報先申進候商書外、序郭ノ上親シ、開陳可致
候敬具

明治三十五年九月十日

辨理公使 内田康哉

外務大臣 伯耆大隈重信 殿